

アユ冷水病被害を軽減する放流技術確立試験(平成22年度 / 県単)

誌名	栃木県水産試験場研究報告
ISSN	13408585
著者名	渡邊,長生 尾田,紀夫
発行元	[栃木県水産試験場]
巻/号	55号
掲載ページ	p. 40-40
発行年月	2012年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



アユ冷水病被害を軽減する放流技術確立試験（平成 22 年度／県単）

渡邊 長生・尾田 紀夫

目 的

種苗養成池から河川へ、という放流に伴う生育環境の急激な変化はアユ冷水病発生の大きな要因とされている。「アユ冷水病防疫に関する指針」（平成 20 年 3 月改訂、アユ冷水病対策協議会）では、放流時期・場所の決定にあたり、河川水温や流量、餌となる付着藻類の状況など、河川の状況を継続的に記録し、参考とすることとしている。しかし、これまで本県では、餌となる付着藻類の状況についての検証がされないまま放流事業が実施されてきた。そこで、河川におけるアユの主餌料である藍藻（ヒゲモ科 *Homoeothrix* sp.）の芽だし時期を調査した。

材料および方法

調査方法 県内の漁業協同組合（以下漁協と表記）がアユを放流している場所の中から、放流数の多い場所 10 地点を選定した（表 1）。それぞれ調査地点の河川の石に付着した藻類を歯ブラシでこすり落とし、河川水とともにサンプル瓶に入れ、水産試験場に搬入した後、光学顕微鏡により *Homoeothrix* sp. の有無を確認した。あわせて、その時点の河川水温を計測した。調査は平成 22 年度の放

流が始まる時期を考慮し、平成 22 年 3 月から 6 日間間隔で調査することとし、調査地点ごとに *Homoeothrix* sp. の確認ができた時点で終了することとした。

結果および考察

各調査地点における、調査日、調査時の水温、*Homoeothrix* sp. の有無について表 1 に示した。鬼怒川において、3 月 10 日の調査では *Homoeothrix* sp. は確認することができなかったが、3 月 16 日の調査では柳田大橋上以外の調査地点で発生を確認できた。また水温の上昇が遅い粕尾川では 4 月 19 日に芽だしを確認することができた。鬼怒川ではおおよそ 3 月 15 日以降、黒川、行川、渡良瀬川ではおおよそ 3 月 20 日以降、粕尾川ではおおよそ 4 月 20 日以降を目安に放流を行うことで、餌不足による冷水病の発生リスクを回避できると考えられる。

表 1 県内河川における *Homoeothrix* sp. の芽だし時期

河川名	調査場所	調査日	水温	<i>Homoeothrix</i> sp. の有無	調査日	水温	<i>Homoeothrix</i> sp. の有無
鬼怒川	鬼怒川フィッシングエリア横	2010年3月10日	6.8℃	×	2010年3月16日	11℃	○
	柳田大橋上	2010年3月10日	5.5℃	×	2010年3月16日	9.4℃	×
	石井鬼怒橋上	2010年3月10日	5.7℃	×	2010年3月16日	9.5℃	○
黒川	見野東武鉄橋下	2010年3月22日	8.5℃	○			
	睦町	2010年3月22日	9.3℃	○			
行川	ケアハウス	2010年3月22日	9.1℃	○			
粕尾川	下粕尾	2010年4月19日	8.9℃	○			
渡良瀬川	葉鹿橋左岸下	2010年3月20日	12.6℃	○			
	高速道路右岸下	2010年3月20日	12.1℃	○			
	鹿下橋右岸下	2010年3月20日	12.1℃	○			

(水産技術部)

〔水産技術部〕

アユ冷水病被害を軽減する放流技術確立試験（p40）

河川におけるアユ冷水病被害を軽減する方策の一つとして、河川内にアユの餌料が十分に育った後の種苗放流実施が挙げられます。そこで、河川内でのアユの主餌料である藍藻 *Homoeothrix* sp. の芽だし時期を調査しました。その結果、調査した鬼怒川、黒川、行川、渡良瀬川の9地点において3月中旬から下旬までに芽だしを確認しました。水温の低い粕尾川では4月の中旬に芽だしを確認しました。芽だし後の放流であれば、餌料不足の影響による冷水病の発生リスクは回避できると考えられます。